

これはイエスによって癒された盲目の男のすばらしい物語である。

あなた方や私に起ったなら、狂喜しない人は誰であろうか？ 私が眼鏡の新しい処方箋を得て、初めて最初の眼鏡をかけた時、突如すべてのものが鮮明に見えた。すばらしい！眼鏡をかけている人たちは、この経験を知っているだろう。

もし私たちがなにも見ることができず、その結果、極貧になったことを想像してみよう。それは私たちの人生を変える。これはすばらしい物語である。

しかし聖書の物語は素敵な物語以上のものがある。この物語には二つの特別なことがある。第一の特別なことは、物語に意図があり、その昔、イエスによって盲目の男が癒されたそれ以上の意味があると語っている。第二に、聖書は常に私たちのことを語っている。その昔、何かが起きたことだけではない。例えそれがすばらしいことであっても、私たちは聖書を“聖なる”と呼ぶ。それはその昔、イエスがなされたことだけではなく、この今、イエスが私たちになされていることだからだ。

であるからまず最初に、この物語の意図を探ろう。

最初の意図はエリコの町で盲目の男が癒されたことにある。憶えているだろうか？ エリコは、人々がヨルダン川を渡り、神の国に入った時、ヨシュア（モーセの後継者）が打ち破った町である。城壁が崩壊した？ それはエリコで盲目の男が視力を取り戻した時、その男の目の周りの壁が崩壊した意味がある。男は再び見ることができたのだ。それは又、男の人生の周りの壁が崩壊した意味もある。彼は、神が約束された国と命に、やっと入場したと感じたに違いない。

第2の意図は、これはイエスが癒された唯一の名前が残る男である。“テマイの子”という名である。この名前が残っているのは、彼が初代キリスト者にとって大変重要であったのに違いない。マグダラのマリアも、（癒された人々のなかで）唯一の名前が記録されているもう一人である。これは私たちがこの物語を真剣に受け止めるための合図である。

第3の意図は2章前（マルコ8:22, 23）にある。（ベツサイダで）イエスが生まれつきの盲目の男を癒された。しかし最初は完全に癒されなかった。あなた方がこの物語を憶えていると確信している。イエスが彼を癒されると、「人々は木のようですが、歩いているのが見えます」と男は言った。しかしこの時（2度目）の癒しは、イエスが他のすべての人々を癒されたように、直ちに完全にもたらされた。何かが起きている。それはイエスが

他の盲人のように一度で正しく癒されたことではなく、これは、私たちが癒されることについて、何かを学ぶ意味があるのだ。それは“見えること”の意味についてである。

では第4の意図。この二者の盲目の男たちになされた癒しの中に、弟子は互いに愛することを三度も拒否している。目が癒されたバルテマイのこの物語のすぐ前に、兄弟のヤコブとヨハネは、天国で他の弟子よりイエスにより近く座れる特別な扱いを得ようとする。彼らはなんと欲が深いのか？ その前に、弟子たちの中では、誰が一番偉いのかと言いつつ争っていた。そしてそれより前に、(ベッサイダの)最初の男が癒されたすぐ後、イエスが殺されることを弟子たちに話すと(マルコ9:31)、ペテロはイエスを諫めた。

あなた方はこれまでで意図をくみ出したと思う。愛をもって自分たちの命を捧げなさいとイエスが呼び掛けられたが、いかに弟子たちが盲目であったのかを物語が述べている。弟子たちはイエスを信じた、イエスを信頼した、イエスのすべての奇跡に感激した。しかし彼らは、イエスの一部しか見ていなかった。彼らが見たのは、イエスが命をもたらされたことだ。彼らが見なかったのは、私たちが愛し合い、私たちの命を捧げなさいとのイエスの呼び掛けであった。それは十分に生かされる唯一の道である。最初の癒しの意味は、弟子たちがイエスが誰であるかの一部を見ることから始まる。であるから、彼らは常に一番偉くなりたがる。彼らは人々に奉仕すうことを望まない。彼らは大切な点を見ていない。しかし二人目の男(バルテマイ)は盲目が癒され、今回は(一回の癒しだけで)完全である。その印を、弟子たちは完全に見るだろう。

最後の意図は明瞭である。マルコは言う、バルテマイが癒されるやいなや、彼は“イエスの道に従った”。初代キリスト者は、人々の“道”(way)と呼ばれていた。あるいは私たちは、人々の“進路”(path)と言うかもしれない。バルテマイがイエスの“進路”(path)に従って行った時、ただエルサレムへの道を歩んでいたのではない。それはイエスが処刑される5日前のことであった。このことは、バルテマイが自分の命を捧げる道を歩み始めた意味がある。それは、神が私たちが深く愛して下さったのと同じように愛するためである。

従って、二人の盲目の男たちは、現にあなた方と私のことを示している。

私たちは、イエスがどなたであるかの一部分を見ている弟子であり、一部ではない。最終的には、私たちは鮮明に見るだろう。

マルコは述べている。すべての私たちは、弟子としての旅路にある。最初に私たちは、イエスがいかに強い方であるか、いかに私たちを癒して下さるかの印象が与えられる。

しかしまず最初に、一部分を見るだけである。その後、イエスが私たちを癒されるのを目撃する。そしてイエスが深く愛されたように、私たちは愛することを望み始める。そして人々のために、自分の命を捧げ始める。それが私たちが十分に生かされている時であり、私たちはイエスの“道”を歩む。

従って、例えば、私たちが初めて会った誰かを好きになったら、彼らは何とすばらしい人々なのだろうと驚嘆する。それは特別な経験であり、おそらくは最初に私たち自身よりその人に焦点を合わせるだろう。しかしやがてもし私たちが彼らに留まるなら、あるいは結婚するなら、結び付きは自分を幸福にさせてくれる考えを放棄していることに気付く。私たちは自己を中心とした欲望（自分の利益を求める願い）を放棄している。放棄は滅びるような感じである。そして突如、私たちはかつてない愛のなかにいる。そしてかつてなく生かされている。それがイエスの道に従うことである。
*盲目の物乞いであったバルテマイは、目が癒され、突如、愛のなかにいることを知る。

あるいは、人生を本当に楽しむことかもしれない。とても愉快であるが、その時、突如、犠牲を払わなければならないという声が聞こえる。すべての私たちは、おそらくはもっと質素で、より少ない暮らしをしている。神の世界を真に愛し、神の被造物を救うために。犠牲は滅びるような感じである。しかし犠牲を払う時、私たちは本当に生き始める。なぜなら私たちは、御自身の愛を捧げるイエスの命に生きているからだ。そしてキリストの体であることの意味が本当に見えて来る。私たちは癒されたのだ！ 私たちは本当に生きている！ 私たちはバルテマイと同様に、幸福で喜びにあふれる。

各々の私たちは暮らしの中にすべきことがある、そこには納得できないことがあり、私たちは盲目のように感じる。おそらくは誰かを傷つけたかもしれないし、どのように修正するかが分からない。私たちはおそらく何かに失敗して、気分を害している。おそらくは、起るべき事が起らなかった。それを理解することができない。より愛するように試みているが、どのようにするのが見えない。盲目のように感じる。

エリコの壁のように、私たちの周りの壁を崩壊させる必要がある。

今朝の聖餐式で、霊的鍛練を提供させてほしい。聖餐を受けるために聖壇に向かう時、バルテマイのように振る舞うのだ。あなた方の望むすべては、正しく見えることである。なぜならそれは真実だからだ。望むすべては、どのように正しく愛するかを知ることだ。イエスがあなた方を近くに呼び寄せ、イエスの命を受け取ると想像しよう。あなた方は座席から立って、バルテマイのように上着を脱ぎ捨てよう。

すべてのものを捨て去ることは、イエスが望まれているあなた方になることを、本当に見続けるためである。上着を脱ぎ捨てることは、（寒さで）少し死にかけるようなことだ。あなた方はイエスに頼る以外にはない。聖壇に向かいなさい。

イエスは御自身をあなた方に差し出される。そして座席に戻りなさい。

あなた方自身の中にイエスの体を受け入れるのだ。

イエスは、どのようにより愛することが見えないあなた方を癒される。

あなた方が見ているのは、常に愛しあったことであり、大切なことを犠牲にして愛したことである。あなた自身が見えるのは、なんとという賜物だろう！

あなた方は、イエスのように愛するために作られた人間である。

あなた方は、よい人でなかったように見させた盲目さは癒されている。

あなた方はイエスが生きておられるのを見ることができる。何という賜物だろう！

あなた方はイエスの行かれる所について行くことは間違いない。

あなた方は今、愛することができる。なぜならイエスが愛の視力を癒されたからだ。

それが聖餐で起きることであり、私たちを完全に生かせるのだ。神に感謝します！

（文責長澤猛）